

平成26年度国立吉備青少年自然の家教育事業

吉備ボランティア養成研修

平成26年5月24日(土)～25日(日)

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

青少年の体験活動を支援するボランティアとして基礎的な知識や技術を習得し、施設ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。

2. 事業の概要

(1) 期日

平成26年5月24日(土)～25日(日)

(2) 募集人員

30名

高校生, 大学生(専門学校生を含む)及び社会人

(3) 参加者

70名(大学生61名, 高校生6名, 社会人3名)



— 青少年教育の理解 —

(4) 研修内容

講義1「青少年教育の理解」

内容: 今日の青少教育年教育の課題や発達段階に応じた体験活動の必要性を理解する。

講師: 瀬戸内市教育委員会 教育長 藤原 一成 氏

講義2「青少年教育施設の現状と運営」

内容: 青少年教育施設の教育機能や役割, 運営について理解する。

講師: 国立吉備青少年自然の家職員

実習1「野外炊事」

内容: 野外炊事を通して, 仲間作りや指導の方法を学ぶ。

講師: 国立吉備青少年自然の家職員

実践交流会「吉備ボランティアとして」

内容: 継続ボランティア自身が感じている吉備ボランティアの魅力を伝え, 新規ボランティアとの交流を深め, 参加意欲を高める。

報告: 国立吉備青少年自然の家施設ボランティア

講義3「ボランティア活動の意義」

内容: ボランティア活動の意義について理解するとともに, ボランティア活動における心構えや留意点を学ぶ。

講師: 横浜市職員 日吉 紀之 氏

実習2「救命救急法」「安全管理」

内容: 応急手当など救命救急に必要な知識・技術を学ぶ。

講師: 日本赤十字社 岡山県支部指導員

講師: 国立吉備青少年自然の家職員

講義4「ボランティア活動の理解」

内容: 青少年教育施設におけるボランティア活動の内容について理解する。

講師: 国立吉備青少年自然の家職員

(5) 企画・運営のポイント

今年度は参加者募集として、岡山県内全ての大学に広報活動を行った。これまでは、教育系の学部がある学校に限定していたが、学部に関係なく呼びかけた。学校を訪問してボランティア説明会を実施する際には、継続ボランティアが主体になって説明を行った。また、説明会用のプレゼンテーションDVDも、継続ボランティアに作成を依頼した。内容は、施設や活動のイメージが湧き易いようなスライドにするなど、学生がよりボランティア活動を身近に感じられるように工夫した。

研修内容では、岩手県大槌町に1年間震災支援活動に入った、横浜市職員の日吉紀之氏に講義を依頼することで、ボランティア活動を青少年教育施設だけでなく広い視点から理解できるようにした。

実践交流会では、継続ボランティアが、新規ボランティア同士の繋がりができる環境づくりを目指して企画させた。



ーボランティア活動の意義ー

3. 活動の内容等

(1) 日程

6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
				受付	開講式	オリエンテーション	講義1 (青少年教育の理解)	昼食	講義2 (青少年教育施設の現状と運営)	実習1 (野外炊事)				実践交流会		入浴	就寝
洗面	起床	清掃	朝のつどい	朝食	荷物移動	講義3 (ボランティア活動の意義)	実習2 (救命救急法)	昼食	実習2 (安全管理)	講義4 (ボランティア活動の理解)	閉講式						

(2) 活動の状況

「青少年教育の理解」では、瀬戸内市教育委員会教育長の藤原一成先生を招聘し、ボランティアと教育の重要性について説明をいただいた。「青少年教育施設の現状と運営」では、当機構が青少年教育のナショナルセンターとしての責務を果たしており、そこへボランティアとして入る者にも大きな期待が寄せられていることの説明をした。「野外炊事の実習」では、薪割りや火起こしをする際の安全面と技術面を示し、共通の手法を確認させた。「ボランティア活動の意義」では、講師に横浜市職員の日吉紀之氏を招聘し、ボランティア活動とは何かを、色々な角度から事例を交えて紹介をしていただいた。「救命救急法」や「安全管理」では、一次救命措置やAEDの使用方法を、より現場に近い状況を想定して行った。「ボランティア活動の理解」では、当施設の事業内容やボラン

ティアに参加する際の手続きの説明をした。

4. 成果・課題

(1) 成果

岡山県内全ての大学に広報活動を行った結果、前年を上回る受講者を募ることができた。ボランティア説明会を、継続ボランティアが主体になって行うことで、参加者にはより身近に感じ取れたようである。また、説明会用のプレゼンテーションDVDを、継続ボランティアが作成することで、職員とは違う視点で広報活動ができた。

外部講師には、自らの体験をとおした講話を頂くことで、参加者はボランティア活動を多方面からイメージすることができ、意欲が高まった。

実践交流会では、継続ボランティアが企画することで、スキルアップに繋がると同時に、新規ボランティアにとっては良いお手本となった。

以上、参加者側に立ち位置を置くことで、参加者から高い満足度が得られた。



—実践交流会—

(2) 参加者の声

- 事業全体に対する満足度 …97.0%
- 事業のプログラムに対する満足度…95.5%
- 事業の運営に関する満足度 …97.0%
- 職員の指導、助言に関する満足度…98.5%

参加者アンケート 自由記述より

- ・とても楽しく、学びも深く、充実した2日間でした。これからのボランティア活動に参加するので、凄く楽しみです。ありがとうございました。
- ・継続ボランティアの運営の仕方を見て、自分もそうなりたと思いました。
- ・継続ボランティアの人たちも運営に関わっていて、その様子が見られてよかった。
- ・子どもと活動する時の実践的な内容の指導・助言が多くあってよかった。
- ・とてもよい体験になり、自分なりに少しは成長できたかなと思いました。これからの事業にも積極的に参加していきたいと考えています。

(3) 今後の課題等

- ・募集人数が70名と大きく上回ったのは良いが、参加者を把握するのも困難であり、これ以上増えると運営上支障をきたす可能性があると思われる。
- ・職員と継続ボランティアとの役割を明確にすることで、双方の意識も高まり、今後のボランティア養成研修の質がより高まると思われる。

担当:企画指導専門職 村上 聖一